

京都市伏見区 久保 朱實 (84 歳)

父は南朝鮮 (韓国) で砂防技師として総督府の任務に就いていました。現地で生まれ育った私は、日本人学校の国民学校に昭和 17 年に入学すると、大東亜戦争 (第 2 次世界大戦) から 2 年目で軍事一色でした。

当時 2 年生から勤労奉仕で、課外活動の田植え、松脂の枝採り、日本軍の演習の煙幕の見学、頻繁に出征される兵隊を旗と軍歌で見送りました。それから傷病兵への慰問、戦地の兵隊への慰問袋に激励、感謝と「毎日学校に通えるのは兵隊さんのおかげです」とお礼は必ず書くように指示されました。

昭和 20 年 (当時 4 年生) になると、勉強よりも「軍事教練」で、登校時ゲートルを巻き、便箋 5、6 枚に軍歌を書き写し紐で首にぶら下げることが強制されました。忘れたら体罰を受けました。

4 年生から 6 年生は軍服の兵隊から先に敬礼と最敬礼を習い、号令により行進、回れ右、右向け右、行進、回れ左、左向け左、行進、全体止まれ等、機敏な動作を厳しく指導されました。戦争の悪化と共に本来の学業はどんどん減らされ、このような軍事教育や勤労奉仕が増えていきました。大切な「教育を受ける機会」も奪われ、非人間的で重苦しい時代でした。

やはり戦争は二度と繰り返してはいけませんね。